

窓辺

焼津市立総合病院

いけの
池野 文昭
ふみあき

私は渡米以来、スタンフ
オード大循環器科に所属
している。心臓治療では全
米屈指の施設で、循環器
医は内科の花形である。私
がこの循環器科に進んだ
きっかけは、実は焼津にあ
る。

自治医大出身の私は、卒
業後はへき地医療に従事す
ることになるため、循環器
医になることは不可能と言
われていた。なぜならば、
循環器医は高度専門病院に
勤務することにより患者様
の治療ができる領域だから
で、へき地では到底無理と

思われていた。しかし私は、
絶対に循環器医になりたか
った。人の生死に直結する
心臓を治療し、命を救いた
かった。正直、かなわぬ夢
と諦めてもいたが。

医師3年目。研修医とし
て勤務した焼津市立総合病
院循環器科は当時、長崎文
彦先生を中心とした東京の
虎の門病院から着任した
腕利き医師の集団だった。
実際、先生は虎の門病院時
代に大平正芳首相（当時）
の治療団の一員でもあっ
た。この長崎先生との出会
いが、私の人生を変えるこ

とになる。

先生は、学閥など関係な
く私を平等に指導して下さ
った。循環器医になること
も応援してくれた。カテー
テル手術も積極的に指導し
てくださり、私も短い研修
期間を有効に過ごしたいと
思い、毎晩、手術着で病院
に宿泊し救急車を待った。
へき地赴任後も週1回であ
るが、焼津での研修を受け
入れてくださった。

アメリカ留学時、背中を
押してくださいったのも先生
だ。今の私がいるのは、長
崎先生との出会いがあった
からである。そして、夢は
絶対に諦めてはいけないの
だということを学んだ。

スタンフォード大
主任研究員、医師